

当診療所における対応方法の検討
10カウントについての考察

湯浅 清一¹⁾・野村 良二¹⁾・安田 一成¹⁾・
中村 美紀¹⁾・松村 東栄¹⁾・酒井 秀士¹⁾・
西岡 秀喜¹⁾・横矢 重幸¹⁾・石川 裕子²⁾・
山崎 統資³⁾・芳賀 定⁴⁾・松井 崇¹⁾・
金井 保昌¹⁾

¹⁾東京都目黒区歯科医師会, ²⁾八雲あいアイ館歯
科診療所(目黒区), ³⁾東京医科歯科大学大学院医
歯学総合研究科障害者歯科学分野, ⁴⁾芳賀デンタル
クリニック(平塚市)

緒 言

目黒区歯科医師会障害者歯科診療所・八雲あい
アイ館歯科診療所(以下,当診療所とする)は,平成
13年4月開設以来,今年で5年目を迎える。

現在,歯科医師会会員から希望者を募り,所定の
研修を受け,実際の診療に当たっている担当医が
13名,常勤歯科衛生士が1名,非常勤歯科衛生士が
5名,および指導医が2名であり,2ヶ月毎の輪番制に
て診療を行っている。

今回,開設5年目を迎えるにあたり,今後より一層の
診療の充実と技術水準向上を図る目的で,日常の診
療における基本的対応法について見直し考察を加え
たので,ここに報告する。

方 法

当診療所では,基本的対応法として,TLC(Tender
Loving Care),TSD・T-TSD(Tell Show Do・
Tell-Touch Show Do),モデリング,激励と賞賛,ボイ
スコントロール,10カウントなどを実践し,通法下での
治療を心がけている。今回10カウントについて焦点を
絞り,その有効性や役割について検証した。

方法として,発達期の患者を中心に診療の様子を
ビデオに収録したもののの中から10カウントを行って
いる症例を選別し,その方法,有効性,他の対応方法と
の関連性について検討した。

考 察

当診療所では,10回の研修を通して,診療に対す
る考え方や対応方法,ならびに一連の診療システム

を習得した担当医により,輪番制にて診療を進めて
いる。実際の診療では同一の患者に対して,10カウ
ントひとつをとっても,個々に多少の違いがあり,術者
間で差異が見られることもある。また,患者の個体特
性(機械音や泣き声などへの拒否)を考慮することによ
って,10カウントのスピードや声のトーンといったも
のを調整しているが,それぞれにその効果は現れて
いるように思われた。



図1 10カウントの実際

10カウントはこれまで,「課題終了の目安」あるいは
「忍耐を促す手段」として考えられてきたが,それ以
外に患者を心理的に落ち着かせる効果があるように
思われる。中には10カウントに同調するケースも見ら
れ,不安や恐怖の除去,信頼関係の確立などに役立
つものと考えられる。つまり,診療のテンポやメリハリ
を付ける意味で,また患者との心理的繋がりを保つ意
味でも,10カウントを行って診療をした方が良いように
思われた。また10カウントの具体的な方法としては,
多くの症例で1~2秒間隔でゆっくり落ち着いた雰囲気
の中で静かにカウントし,所々でほめたり励ましたり
することで効果が得られるように思われる。この際,他
の基本的対応法であるTSDやモデリングなどを併用
することも重要であると思われる。

結 論

今回,当診療所では基本的対応法における有効,
確実な方法と思われる10カウントについて再考し,以
下の結果を得た。

10カウントは,対応方法のひとつとして有効である。
10カウントは,単独で使うだけではなく,他の基本的
対応法と組み合わせて行った方がより有効である
と思われた。

10カウントは,「課題終了の目安」「忍耐を促す手
段」の他に心理的に落ち着かせる効果があるように
思われた。